

「進路見学会に参加して思ったこと」

川根高等学校 一年生 大石野々花

7月15日にわたしたち一年生は、進路見学会という行事で静岡大学と矢崎部品榛原工場に行きました。

静岡大学では、大学紹介や付属図書館の見学をしました。大学紹介では、先生の割合が生徒の人数から考えると多くいるため一人の生徒に専門に教える先生がいると言っていました。専門の先生がいてくれるのは、分からないことを質問しやすく分かるまでじっくり教えてもらえるので安心だと思いました。図書館が充実していて図書館にない本をパソコンで探せたり、個別閲覧席があったりと勉強しやすい環境が整っていると思いました。大学に見学に行ったことがなかったので大学の授業内容、サークル、施設についてよく知ることができました。次に行った矢崎部品榛原工場では、施

設や工場を見学したり、社員の方の講話を聞いたりしました。工場見学では、故障したときにすぐに原因がわかるように機械の周りのプラスチックを透明にするなどの工夫があったり、機械をいねいに掃除したりしていました。機械を扱うときに大切に扱うということは、とても大切だと思いました。清掃も一人ではなく全員で行っていたので協力して何かを

思いました。社員の方の講話では、日本だけでなく海外にも会社を持っていて日本から技術を教えに行き大企業へと発展させるなど、外からでは分からないようなことがこの講話で聞けたと思います。また、川根高校を卒業し矢崎部品工場で働いている卒業生が最後にお話をしてくださって働いていて大変なことなどを教

えていただきました。矢崎部品榛原工場に見学に行つて、普段見れないような機械の工夫や仕事内容を知ることができました。

今回、進路見学会に参加してみ自分の中で新たに世界が広がった気がしました。わたしは、将来教育関係の仕事に就きたいと思っています。これから自分の将来に合った志望校を自分で決めていかなくははいけません。進路見学会は、そのことをよく考えさせられたものでした。進路見学会で終わりではなく、今からがスタートだとわたしは思っています。この進路見学会を起点に、これから自分の進路に向けてよく考えていきたいと思っています。また3年後、自分が選んだ志望校に進学できるように日々の努力を怠らないようにしたいです。

